武雄アジア大学

武雄アジア大学「地域共創シンポジウム」

第1回「武雄のやきもの」

武雄アジア大学は「地域共創」を使命として武雄の地に誕生しました。
佐賀県西部における知の拠点として、地域の人々と共に地域を創ることを使命としています。
そこで「地域共創」をテーマとするシンポジウムを定期的に開催することにいたしました。

第1回は、下記の通り、大学祭の期間に、陶磁器産業をテーマに開催いたします。
併せて作品展示も行っておりますので、ぜひご来場、ご参加ください。



武雄には、400 年の伝統を誇るやきものの歴史があり、市内には90をこえる窯元があると言われています。
そして、それらの伝統的な系譜は決して一様ではなく、技術的にも極めて多様に展開しています。
こうした多様さの共存こそは、未来へ伝えていきたい文化的特徴ではないでしょうか。
こうした特徴を維持するために、今、何ができるのか。
陶芸家の方々の声を聞きながら、みなさんと一緒に考えてみたいと思います。

写真提供：武雄市観光協会

2026.11/14 SAT. 10:30-11:30

武雄アジア大学大階段ホール（随時受付、定員100名）

登壇者　東馬窯、亀翁窯、壮明窯

＋ 展示会も同時開催

時　間　10:30-16:00　（展示会は14,15日開催します）

場　所　武雄アジア大学204教室　（販売はありません）

当日は、隣接地（ケーブルワンスポーツパーク）で「武雄の物産まつり」が開催されているため、
大変混雑することが予想され、また駐車場に制限があります。
公共交通機関や無料シャトルバスをご利用いただきますよう、お願いします。

タイムスケジュール

10:30　開会挨拶

登壇者紹介

壮明窯　浦郷 好文 氏

壮明窯当主の浦郷好文先生は長年有田町の磁器総合メーカーに勤め作陶技術を修得し、49歳の時に『自分の作りたいものを作る』という強い思いから独立を果たしました。
現在は、ろくろ成形による染付技法で公募展に出品し研鑽を重ねてきました。モチーフは生命力を表現する四季の草花が中心にあります。



亀翁窯　古賀 末廣 氏

亀翁窯当主である古賀末廣先生は、嬉野市にある窯元で20年以上にわたり磁器の作陶にあたり技術を極めました。その後独立を機に、陶器への挑戦を本格的にはじめました。
現在は、櫛刷毛目技法（くしはけめぎほう）と型紙摺り（かたがみずり）の技法を現代的図柄で制作されています。



東馬窯　馬場 宏彰 氏

東馬窯の馬場宏彰先生は、武雄の陶土や武雄の天然原料を用いて陶土や釉薬の配合を科学的に研究し、「三角座標」を用いて釉薬や陶土を配合されている窯元さんです。
武雄市特産品のレモングラスを釉薬の原料に用いたレモングラス釉や梅華皮釉（かいらぎゆう）、蛇蝎（だかつ）などに取り組まれています。



10:40　リレー講義

11:25　閉会挨拶

【お問合せ】　武雄アジア大学　0954-30-0002